第 2016-24 号

恵みと真理のニュース

2016 年 6 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　重なる苦難の中で堅い信仰を与えて下さり、今日も主の中で生きるように導いてくださった神様に感謝します

私は儒教の慣習を徹底的な親元の8兄弟の中で長女で生まれ育ちました。家庭教育はとても厳しくて長女だった私にもっと酷かったです。そして孝行についてよく話しました。それで、親の話には全て従順しなければならなかったです。家庭では父の話が法でした。キリスト教の信仰は感心すら持つことはできない家庭で成長しました。

私が結婚した後、隣の家に住んでいた区域長に伝道され恵と真理教会に始めて行って、イエス様を信じる信仰生活を始めました。はじめの礼拝に参席した時に多くの聖徒が一つになって切に声高く叫ぶ祈りと賛美に驚きました。聖徒の中でも涙を流して切に神様を望み祈る姿を見て心が熱くなり感動を受けました。そして当会長の牧師が伝える説教が私の心中を察しました。“本当に神様が存在するのか？”“なぜ、私が罪人なのか？”という疑問があって説教を聞けば聞くほど一つ二つずつ解消され神様に対する信仰が成長しました。主日には全ての事を後にしてまず教会に行って礼拝を捧げました。

礼拝が楽しくて次の礼拝時間を待ち望んだら旦那の迫害が始まりました。聖書を火で焼き尽くすくらい迫害は酷くなりました。はじめは私だけ迫害したが後では二人の娘にも迫害をして担えられないほどでした。そんな状況でしたが体は疲れても心は大胆でした。むしろ主が私と共にいると信頼が深くなりました。聖霊が大胆な心を与えてくださり、神霊な慰めも与えてくださったからです。 そんな旦那がある日アパートの欄干で落ちる事故で5日ぶりに世を離れました。たとえ、私と娘達に苦痛を与えたが旦那だったので空しくなりまるで絶壁で立っているようでした。しかし、突然、旦那の死亡で人生の空しさを深く悟り神様をもっと畏れ委ねる生活をしながら二人の娘のため最善を尽くしました。その時、賃貸マンションで住んで経済的に大変な状況でした。そんな生活の中でも子供達が中学校、高等学校に進学して勉強するように神様が導いて助けてくださいました。そうするうちに隣り人の区域長が再婚を勧めて何回も断ったが今の旦那と再婚をしました。はじめはイエス様を信じなくて迷いましたが、彼の息子の目を見て母いなくてかわいそうと思い結婚を決心しました。目がきらきらで優しく見えて神様が私に預かったと思いました。神様の恵みに感謝します。共に教会に出席しました。

ところが、2005年夏に、息子が家で脳出血で倒れました。すぐ119の救急車に運ばれ近くの病院で移送され再びインチョンの大きい病院応急室で運ばれました。発病の理由もないまま何も考えられませんでした。応急室で手術室でまた集中治療室で行ったり来たりして恐れました。継母という呼称と状況が私をもっと不安させました。 案の定、婚家族たちの矢が私をターゲットにしました。 ″子どもを殴って虐待したのではないか? 子供を飢えさせたのか? いったいどうして子がああなったのか?″、むごいことをしました。私は悔しくて耐えられませんでした。“かみさま、私は悔しいです。心で産んだと思って神様がくださったプレゼントだと思って育てたのに、”となきながら祈りました。結局息子の病気の名が明らかになりました。“ 先天性奇形、脳動脈瘤破裂’だと言われました。”神様が私の悔しさを解けてくださいました。息子の病気は私の心が痛くなりました。婚家は態度が変わって私達が教会に通って不幸中の幸いで命を助かったと息子が起きるともっと熱心に教会に通いなさいと慰めてくださいました。

集中治療室で移った息子は植物人間と同じ状態でした。7時間にかけて脳手術を受けて顔が浮腫んでしまいました。教会で牧師と伝道士がまた聖徒達が来て慰めと希望の話しをして息子の治療と家族のため切に祈りました。真に感謝しました。旦那と娘達も涙が乾くないほど切ない心で哀れみと恵を求めて祈りました。

すると、いつまでも集中治療室にいそうだった息子が回復し始め、一般病室に移されました。 そして、身体的な障害はなく、ただ、知的障害3級判定を受けて退院しました。 学校にも復学をして無事に高校を卒業しました。 治療がうまくなってどれだけ回復が早かったのか、神様は私と医師達をびっくりさせました。 信仰生活と社会生活をするのに大きな困難はないように息子を回復させてくださいました。私は神様を仰ぎ祈ったことしかないです。神様が治療してくださいました。“ イエスは、「この種のものは、祈りによらなければ決して追い出すことはできないのだ」と言われた。”（マタイの福音書　９：２９）ハレルヤ！退院した息子は性格が明るくなって顔も笑顔になりました。私の家族の信仰も深くなり子供達にも仲が良くなりました。このことも神様の恵みでした。息子に知的障害があっていつどこでも息子の影になる生活をしました。

そうするうちに、長女が結婚7年ぶりに娘の双生児を出産して、また一ヵ月後、今度は二番目の娘が子供を産みました。 一日は産後養生院に入った次女の家で家事をしている時に病院から電話が来ました。 息子が交通事故に遭ってひどく危篤な状態という青天の霹靂のような話を伝えてきました。 その時に息子は健康が大きく回復して就職を準備中でした。 自転車を乗って停留所に向かっていた息子を乗用車が衝突しては40メートルももうそのまま息子を連れて行きました。

手を使う暇がないほど息子は脳死判定を受けて、臓器を寄贈して天国に行きました。

私はとても大変で苦痛を感じて神様に聞いてまた聞きました。 ″神様、この事も私が必ず経験しなければならなかったことですか? 避けることはできなかったことですか?″息子の臓器寄贈のためにソウルに移送されるが、私は実の母親がないという理由で同行せず、一人で電車に乗って戻って誰もいない家で一人で泣きました。 継母という呼称が私の胸を痛かったです。葬式後にも事故を処理するため苦労の連続でした。息子が加害者に変わるあっけない出来事が起りました。

さらにあきれたことは加害者が私たちと同じマンションそれもすぐ隣に住む女性でした。 それだけでなく、初めて選任した弁護士が不誠実して、私たちの苦痛をさらに加重させました。

こんな状況で区域の聖徒が私の家で集まって祈りをしてくださって大きい恵と慰めになりました。すべてのことを主に委ねました。はじめは最後まで戦うとしましたが息子のため早く事件を終えたくて弁護士を再び選任して合意をして事故処理を終えました。加害者だったおばさんを今もエレベーターまたは道に会います。神様が全ての事をしておられるので神様に委ねたから、出会うと私が先に挨拶をかけます。このように聖徒として仇も慈しみ心で赦す信仰を持つように導いてくださった神様に感謝します。そして、私達の生死を知ろしめす神様はどんな差別もなく痛みがない天国に息子を連れて行かれたと思い神様に感謝を捧げます。

重なる苦難と逆境の中でもっと堅い信仰を持つようにしてくださった神様、私の力では担えられない時、痛い時、愛と権能な手をだして掴んでくださった神様に感謝を捧げます。次の年には神様は私に誉れの勧士の職分もくださり、旦那にも新しい職場でやりがいも感じて熱心に仕事をするようにしてくださいました。私の心に主の平安がにな充満になり熱心に主の事に力を尽くすように恵をくださる神様を賛美します。

［信仰コラム］　中身のある信仰生活

″...また、箕を手に持って、打ち場の麦をふるい分け、麦は倉に納め、からは消えない火で焼き捨てるであろう」。″（マタイによる福音書３：１１、１２）

誰でも信仰生活をしたら信者だと呼ばれます。教会に登録したら教人だとよばれます。しかし、信者あるいは教人だと呼ばれることが救いを得ることを意味するのではありません。中身のある信仰生活をするべきです。中身とは核心的な内容を意味します。信仰生活の三代要素は信仰と礼拝と奉仕であります。

第一、中身のある信仰を持つべきです。

ヤコボ書２章には″わたしの兄弟たちよ。ある人が自分には信仰があると称していても、もし行いがなかったら、なんの役に立つか。その信仰は彼を救うことができるか。″と話した後″行いのない信仰″は中身がないということと″行いのない信仰″は知的な同意に過ぎないということを説明しました。悪霊も神様がどなたであるか、イエス様がどなたであるかを良く知っています。しかし、神様を恐れるだけで仕えません。神様の思い通りに行わなく神様の存在に対する信仰だけを持っていること、聖書を学んで知ってはいるが聖書通りに信じなくて歪曲して話し、状況に合わせて話す人の信仰は悪霊の信仰と違いがありません。

アブラハムはひとり子イサクを燔祭（はんさい）として捧げなさいという神様の命令をその通りに実践に移しました。アブラハムのこのような行いの基調には神様の言約に対する信仰がありました。その信仰が神様の命令に従う行いとして証明されました。使徒達は身辺の脅威を受けながらも大胆に″この人による以外に救はない。わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである」。″（使徒言行録４：１２）と述べました。神様が与えてくださったお言葉を信じて、その信仰を守るために妥協をせずに行うことが中身のある信仰を持った聖徒の姿であります。

第二、中身のある礼拝を捧げるべきです。

礼拝の形式は決しておろかに扱ってはいけません。しかし、礼拝の本質が無視された形式は意味がありません。礼拝の対象と礼拝する人の霊的な状態が礼拝の主要本質であります。礼拝の本質についてイエス様が″しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊とまこととをもって父を礼拝する時が来る。そうだ、今きている。父は、このような礼拝をする者たちを求めておられるからである。神は霊であるから、礼拝をする者も、霊とまこととをもって礼拝すべきである」。″（ヨハネによる福音書４：２３、２４）と言われました。

礼拝する人は神様が霊でおられることを知るべきです。神様は全ての物質を御作りなさった創造主でございます。従って、被造物の中で何をそして、人の手で作ったある形像に仕えることは神様を辱めることです。誠な礼拝は生まれ変わった霊を持った聖徒が聖霊様の臨みによって真理でおられるイエスキリストの中で父なる神様を敬拝することです。これが中身のある礼拝です。

第三、中身のある奉仕をすべきです。

私達の全ての奉仕は″神様の愛と恵み″という動機と″神様の光栄と主を喜ばせるための″目的によることであるべきです。イエス様がベタニアに住むナザロの家を訪れて弟子達にお話しなさっている時、マリアがナルド香油が入った石膏のつぼを持ってきてそれをこわし、香油をイエス様の足に注ぎかけて自分の髪の毛で拭いました。高価のナルド香油の香りが家の中に満ちるとイスカリオテのユダが香油を無駄にしたとマリアを責めました。しかし、イエス様はマリアを賞嘆なさいました。私達が神様を礼拝することや福音を述べ伝えるために使う費用に無駄だという言葉を使うのは適当ではありません。私達の奉仕は神様に対する感謝と愛から出発して主神様に光栄を捧げて主を喜ばせることで終わらなければなりません。そうしなければ中身のない奉仕になってしまいます。霊と真理が排除された礼拝、神様が中心ではない奉仕は本質が喪失されたことであります。輝くとして全てが宝石ではありません。外面や格式、手続きは優れていても本質が変質されて中身のない信仰生活は結局、無意味なことになっていまいます。救いもなく報いもありません。皆さんは中身のある信仰、中身のある礼拝、中身のある奉仕で成り立っている信仰生活をしてください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

聖徒のために働く聖霊

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

イエス様が安息日にエルサレムのベデスダの池の近くにある廊下にいらっしゃいました。 イエス様が多くの病者の中に体を動かすことができない 38 年になった病者を治しました。 この事によってユダヤ人がイエス様を逼迫しました。 イエス様が彼らを向けておっしゃるのを “私の父が今まで働いたら私も働く。” としました。神様の治めるのが排除された世の中と歴史とは存在しないです。 イエス様が約束したとおり聖霊が天から降りました。 その日以後に聖霊は聖徒を通じて世界中の万民に福音が伝えるように働きます。 神様の選んだ者がイエス様を信じて生まれかわって永生を得るようになさいます。 生まれかわった人は聖徒という称号と呼ばれます。聖霊は聖徒のために働きます。 こんな事実がいくら驚くべきで嬉しくて感謝するか形言する道ないです。 これから聖霊が聖徒のためになさる働き、七種をよく見ます

第一、私たちが神様の息子になったことを証言します。

“しかし、彼を受けいれた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。”(ヨハネによる福音書 1:12) と言ったが、これを証言してくださる人が聖霊です。 “すべて神の御霊に導かれている者は、すなわち、神の子である。あなたがたは再び恐れをいだかせる奴隷の霊を受けたのではなく、子たる身分を授ける霊を受けたのである。その霊によって、わたしたちは「アバ、父よ」と呼ぶのである。御霊みずから、わたしたちの霊と共に、わたしたちが神の子であることをあかしして下さる。”(ローマ人への手紙 8:14～16) と言いました。

第二、聖徒を真理の中で導いてくださって真理のお言葉どおり暮させます。

イエス様がおっしゃるのを “けれども真理の御霊が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう。それは自分から語るのではなく、その聞くところを語り、きたるべき事をあなたがたに知らせるであろう。”(ヨハネによる福音書 16:13) としました。 イエス様が復活して天の昇りなさった後十日が経って弟子は聖霊の降臨を体験しました。 するとイエス様のお言葉が一つ一つ思い出したしそのお言葉の御旨が悟られました。 そして人々にイエス様がなさったそのお言葉を教えたし、そのお言葉どおり暮しました。 聖書の著者は聖霊です。
“なぜなら、預言は決して人間の意志から出たものではなく、人々が聖霊に感じ、神によって語ったものだからである。“(ペテロの第二の手紙) で聖書に記録されました。 聖霊が聖書の記者に霊感を吹き入れて聖書を記録する時エラーがないようにしました。 だから私たちが聖書を読むとか説教をきく時まことらしくて深い御旨を悟るように聖霊の助けを求めなければなりません。 聖霊は私たちを真理の中で導いてくださって、真理のお言葉どおり暮させます。

第三、聖徒を慰めて手伝ってくれます。

聖霊は慰労者です。 患難と逼迫と悲しみにあった者を慰めます。 聖徒でもこの世を生きる間にはいろいろ難しくて大変な問題に会います。 私たちの力で手におえることができない苦難に処した時に聖霊がいらっしゃって慰めてくださってさまざまな方法で手伝ってくれます。 聖霊は聖徒の弱いを手伝ってくれます。 ローマ人への手紙, 8 章 26 節と 27 節に “御霊もまた同じように、弱いわたしたちを助けて下さる。なぜなら、わたしたちはどう祈ったらよいかわからないが、御霊みずから、言葉にあらわせない切なるうめきをもって、わたしたちのためにとりなして下さるからである。 そして、人の心を探り知るかたは、御霊の思うところがなんであるかを知っておられる。なぜなら、御霊は、聖徒のために、神の御旨にかなうとりなしをして下さるからである。” と言いました。聖父は聖霊の考えが分かって聖霊は聖父の御旨が分かりました。 聖父、聖子、聖霊は三位で存在するが一体であるからです。 私たちは神様の御旨が分かるためにそして神様の御旨を従って従順しながら暮すために聖霊の助けを求めなければなりません。 そして何をどのように祈るはずなのかを分かるために聖霊の助けを求めなければなりません。 聖霊はこのような祈祷をする聖徒を助ける事をなさいます。

第四、聖徒の性分が向上するようになさいます。

イエス様を信じて生まれかわったと言って直ちに聖潔に暮す事になるのではないです。 生まれかわるやいなや性分にきずと点のない人になるのでもないです。 聖徒はイエス様を模範として彼の成長した分量に至るまで至るように力をつくさなければなりません。 誰でもイエス様を自分の求世主に信じて迎接すれば生まれかわって神様の子になります。 神様の子には聖霊が宿でいます。 私たちはこれを “聖霊の来臨む”と言います。 聖徒の中に来臨なさった聖霊は彼らがイエス様の成長した分量に至るまで育つように働きます。 これのために聖霊は二つの方面で働きます。 聖徒が誤れた道に行かないように警戒することと良い性分を実結ばせるのです。 聖霊は聖徒が誤った道に行くとか罪を犯す時に気がとがめさせて正し道に行くように働きます。 また聖霊は私たちの品性に愛と喜楽と和平と長く堪えることと慈悲と良善と忠誠と柔らかと節制の実を結ぶようになさいます。 聖徒に現われる聖霊の実は教会に徳をかけて周囲人々に善良な影響を及ぼさせます。聖霊は聖徒の中にことして聖徒が誤れた道に行かないように警戒する事をなさるだけでなくその品性が向上させる働きをなさいます。

五番目、聖徒に権能と賜物をくださって福音を伝えて教会を仕えるようになさいます。

イエス様が彼の使命を果した後に助け主の聖霊を送った重要な理由の中の一つは聖徒に権能をくださって福音を力が強く伝えるようにするためなのです。 福音を伝える事は知識だけ持ってからは十分ではなくて熱心だけ持ってからは十分ではないです。 福音を伝える事は組織だけ持ってからは十分ではなくてお金だけ持ってからは十分ではないです。 聖霊による権能を受けなければなりません。 だからイエス様は弟子に上から能力で加えるまで待ちなさいとおっしゃったのです。 人々に自分が罪人であることとイエス様の義が絶対的に必要なことと来世に審判があるというのを悟らせてこれによりイエス様を信じさせることは人の力でできる働きではないです。 聖霊の権能ではなければできないです。
聖霊は聖徒に臨んで すなわち、ある人には御霊によって知恵の言葉が与えられ、ほかの人には、同じ御霊によって知識の言、 またほかの人には、同じ御霊によって信仰、またほかの人には、一つの御霊によっていやしの賜物、またほかの人には力あるわざ、またほかの人には預言、またほかの人には霊を見わける力、またほかの人には種々の異言、またほかの人には異言を解く力が、与えられている。 (コリント人への第一の手紙, 12 12:8-10)と このように、わたしたちは与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っているので、もし、それが預言であれば、信仰の程度に応じて預言をし、奉仕であれば奉仕をし、また教える者であれば教え、勧めをする者であれば勧め、寄附する者は惜しみなく寄附し、指導する者は熱心に指導し、慈善をする者は快く慈善をすべきである。賜物もください。(ローマ人への手紙 12:6-8) こんな賜物をくださって福音を権能あるように伝えて教会をよく仕えさせます。 私たちは賜物を自分の誇示のために求める事があってはいけなくて私慾を満たすために使う事もあってはいけないです。 聖霊は聖徒が福音を伝えて教会に有益をかけて聖徒を仕えるようにするために権能と賜物をくださる事をなさいます。

六番目、聖徒の内なる人を新しくして壮健になさいます。

聖書には人を外なる人で区分しています。 外なる人は肉体を意味します。 外なる人は青少年期を経ちながら古くなって衰えます。コリント人への第二の手紙, 4 章 16 節に “だから、わたしたちは落胆しない。たといわたしたちの外なる人は滅びても、内なる人は日ごとに新しくされていく。”と記録されました。 私たちの内なる人がますます新しくなることが分かれば、外なる人の古くなることによって気落ちするまでもないです。 使徒パウロはエペソ教会の聖徒のために “どうか父が、その栄光の富にしたがい、御霊により、力をもってあなたがたの内なる人を強くして下さるように、”(エペソ人への手紙, 3 :16)と祈りました。 内なる人が新しくなって壮健になれば神様を依頼して胆大になって未来に対する肯定的で楽観的な態度を取るようになります。 患難や逼迫や誘惑を軽く乗り越えるようになります。 聖霊は聖徒の内なる人が能力で壮健になるように働きます。

七番目、聖徒が復活するようになさいます。

ローマ人への手紙, 8 章 11 節に記録されるのを “もし、イエスを死人の中からよみがえらせたかたの御霊が、あなたがたの内に宿っているなら、キリスト・イエスを死人の中からよみがえらせたかたは、あなたがたの内に宿っている御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだをも、生かしてくださるであろう。” としました。 聖徒の肉体は死に至るようになるがまたよみがえる時が来ます。 イエス様の再臨の時に復活して変化されます。 イエス様が再臨なさる日に聖徒が復活して変化された体を持つようになるはずなのにこれは聖霊がなさる働きです。

イエス様がおっしゃるのを “わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。”(ヨハネによる福音書 14:16) としました。 イエス様が約束したとおり助け主の聖霊がいらっしゃいました。 そして聖徒のために活動します。 聖霊が聖徒のために働くという事実がいくら奇妙な事かすべて形容する道ないです。 どれほど嬉しくて感謝してから言葉で終えることができないです。 “しかし、わたしはほんとうのことをあなたがたに言うが、わたしが去って行くことは、あなたがたの益になるのだ。わたしが去って行かなければ、あなたがたのところに助け主はこないであろう。もし行けば、それをあなたがたにつかわそう。”(ヨハネによる福音書 16:7)とおっしゃったお言葉のまことらしくて完全な御旨を聖徒の皆さんは日増しにもっと深く悟って体験するように願いします。